

記者資料提供（令和元年 12 月 2 日）
阪神国際港湾株式会社事業開発部 岡村、銅山
神戸市港湾局港湾計画課 村山、浜端

神戸港を活用した物流改善トライアルの実施状況について

近年、成長著しい東南アジアからの貨物集貨に向けて、平成 29 年 3 月にアジア広域集貨プロジェクトチームを設立し、「東南アジア⇄北米間」のコンテナ貨物の神戸港トランシップへの取り込み等について、須藤明彦チーム長（神戸海運貨物取扱業組合 理事長/株式会社大森廻漕店 代表取締役社長）を中心に、官民一体となって取り組んでおります。プロジェクトチームの取り組みの一環として、神戸港では、昨年度から、プロジェクトチームからの提案による「アジア広域集貨促進事業（トライアル）」制度を設立し、神戸港を活用した物流改善に向けた提案を広く民間事業者から募っております。今年度においても、現在のところ、4 件の提案があり、神戸港を活用した物流改善に向けたトライアルを実施（一部実施中）しましたので、下記のとおり、お知らせします。

1. 実施内容（トライアル）

① 神戸港を拠点とした Rail & Sea によるドライバー不足対策

- ・実施事業者 : 株式会社大森廻漕店
- ・トライアル概要 : 神戸港までの輸送をトラックから JR 貨物列車に転換し輸送する。
- ・トライアル前の課題 : トラック及びドライバー不足が深刻化していること。
トラック輸送は、冬季は天候の影響を受けやすいこと。
- ・トライアルの成果 : 天候不順時やドライバー不足時等に確実に輸送できるルートを確保。

② 神戸港を拠点とした Ferry & Rail によるドライバー不足及びBCP対策（実施中）

- ・実施事業者 : 株式会社大森廻漕店
- ・トライアル概要 : 私有 12ft 鉄道用コンテナにてフェリー輸送を行い、輸入時には同コンテナを活用して Ferry&Rail にて目的地まで輸送する。
- ・トライアル前の課題 : トラック及びドライバー不足が深刻化していること。
緊急時に備えた代替輸送手段を確保すること。
- ・期待される成果 : 私有 12ft 鉄道コンテナを輸入及び輸出時に利用した Ferry&Rail 輸送を実施するために必要なオペレーションの確認。
通常ルートより、リードタイムを 2 日程度短縮できることの確認。

③ フェリーを活用したドライバー不足及びBCP対策

- ・実施事業者 : 住友ゴム工業株式会社
- ・トライアル概要 : 宮崎港～神戸港を結ぶフェリーを活用し、神戸港接続での輸送を行う。
- ・トライアル前の課題 : 宮崎県内工場から出荷した製品を輸出する場合、現状では宮崎県内倉庫から主に博多港までの長距離ドラージを要し、ドライバー不足への対応や緊急時の代替輸送ルートの確保が課題。

- ・トライアルの成果 : フェリーを利用し、神戸港経由とすることでドレージ距離が大幅に短縮され、ドライバー不足への対応、緊急時に代替輸送ルートとして活用できる輸送体制が確立できた。

④ 在来船輸送貨物のコンテナ輸送によるリードタイムの改善

- ・トライアル概要 : 神戸港を基点としたコンテナによる中南米向け輸出(横浜港経由)を行いリードタイムの短縮を図る。
- ・トライアル前の課題 : 在来船での輸送は出航日が限られ、製品完成の時期によってはリードタイムが2ヶ月近くかかることとなり、急を要する輸送への対応が困難。
- ・トライアルの成果 : コンテナ輸送を行うことによりリードタイムが大幅に短縮でき(3週間短縮)、急を要する輸送時にも確実に対応できる体制を確立。

2. アジア広域集貨促進事業(トライアル)の概要

<趣旨>

- ・成長著しい東南アジア等から神戸港への貨物集貨を図るため、神戸港を活用した物流改善のトライアルを促進するとともに、この成果も活用したポートセールスを展開する。

<対象事業>

- ・神戸港への国際海上コンテナ貨物の集貨に寄与する以下の改善
- ①西日本⇄東南アジア等の物流について、神戸港経由での輸送の改善や神戸港経由への転換を伴う改善を実施するもの。
- ②神戸港でのトランシップを伴うもの。
- ③神戸港の高付加価値化(神戸港の物流拠点の機能の拡大、IoTによる効率化等)に寄与するもの。

<支援対象費用の範囲>

- ①原則として1事業あたり100万円を限度
- ②トライアル輸送の実施に必要な不可欠と判断できる以下の費用
 - ・輸送費、輸出入に係る諸手続き費用、通関等諸費用、マーケティング費用、システム改修費、PR費用 等

<対象企業>

- ・「荷主」又は「物流事業者(船社を含む)」

<対象期間>

- ・令和元年5月~令和2年3月末にトライアルを実施するもの

2. ご相談窓口

○阪神国際港湾株式会社広域集貨グループ（事業開発部・営業部内）

- ・担当者：岡村、銅山
- ・電話：０７８－８５５－２２４０
- ・Email：senryaku@hanshinport.co.jp

○神戸市港湾局港湾計画課 村山、浜端

- ・電話：０７８－５９５－６３０２

《参考》「アジア広域集貨プロジェクトチーム」参加企業・団体

神戸海運貨物取扱業組合

兵庫県港運協会

オリエント オーバーシーズ コンテナ ライン リミテッド 日本支社
株式会社上組

株式会社後藤回漕店

キャノン株式会社

神鋼物流株式会社

住友ゴム工業株式会社

日本通運株式会社

バンドー化学株式会社

国土交通省港湾局

国土交通省近畿地方整備局

阪神国際港湾株式会社

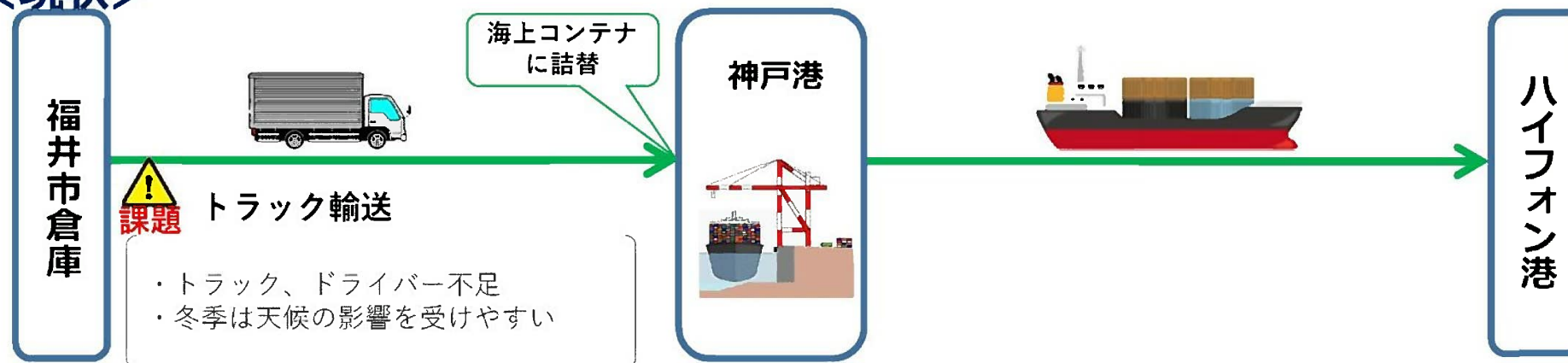
神戸市港湾局

以上

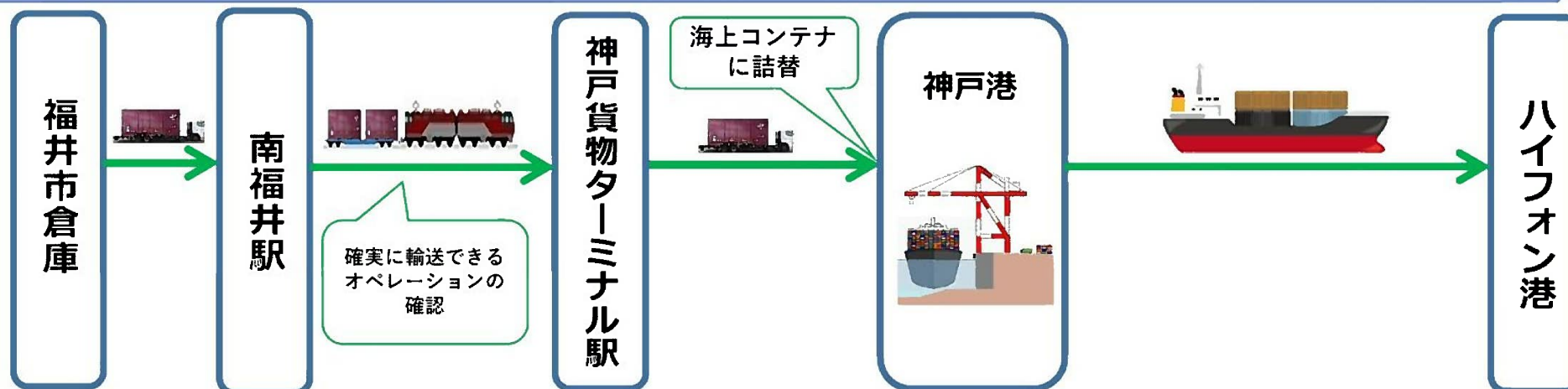
神戸港を拠点とした Rail & Seaによるドライバー不足対策

- 【課題】 トラック及びドライバー不足が深刻化していること。
トラック輸送は、冬季は天候の影響を受けやすいこと。
- 【概要】 神戸港までの輸送を陸送からＪＲ貨物列車に転換し輸送する。
- 【成果】 **天候不順時やドライバー不足時等に確実に輸送できるルートを確認できた。**

<現状>



<対策案> 天候不順時やドライバー不足時等に確実に輸送できるRail&Sea 体制の確立



神戸港を拠点とした Ferry & Rail によるドライバー不足及びBCP対策

現在実施中

【課題】トラック及びドライバー不足が深刻化していること。

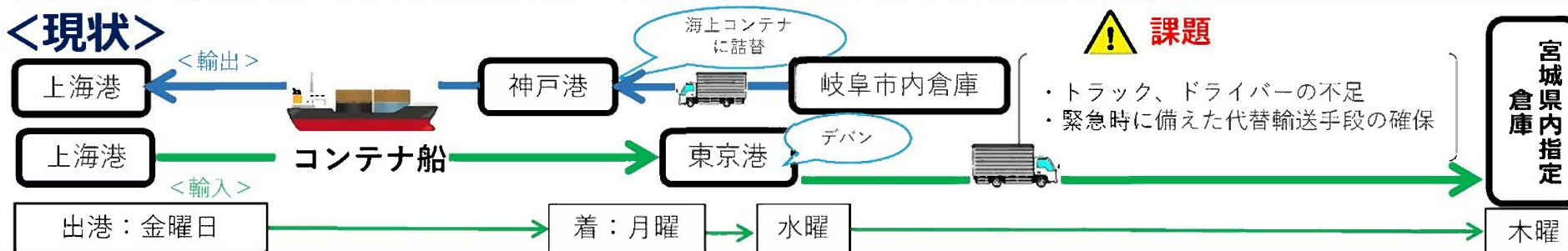
緊急時に備えた代替輸送手段を確保すること。

【概要】輸出時に私有12ft鉄道コンテナにてフェリー輸送を行い、輸入時には同コンテナを活用してFerry & Railにて目的地まで輸送する。

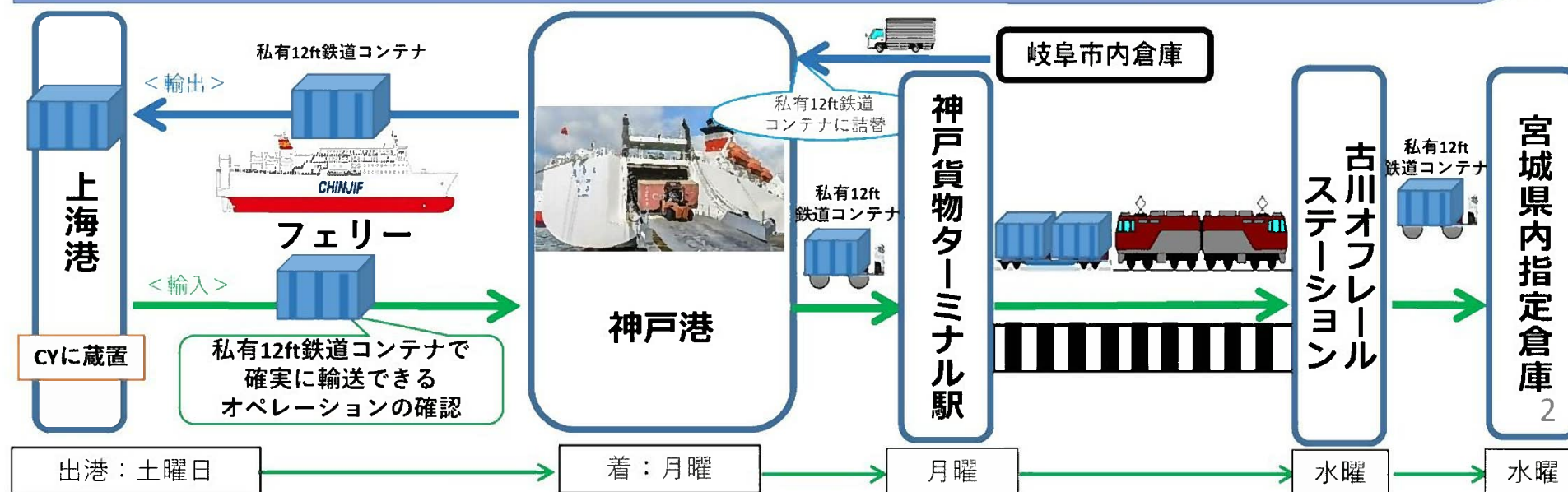
【期待される成果】（輸出は実施済、輸入は実施中）

私有12ft鉄道コンテナを輸入及び輸出時に利用したFerry & Rail輸送実施するために必要なオペレーションの確認。通常ルートより、リードタイムを2日程度短縮できることの確認。

<現状>



<対策案> ドライバー不足時や緊急時に効率的に輸送できるFerry & Rail 体制の確立

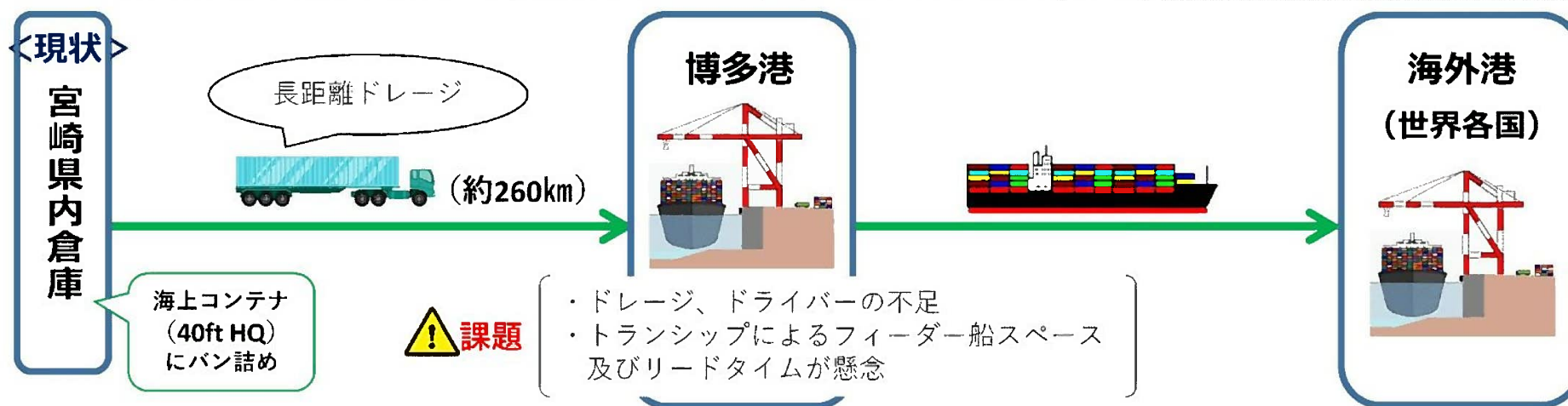


フェリーを活用したドライバー不足及びBCP対策

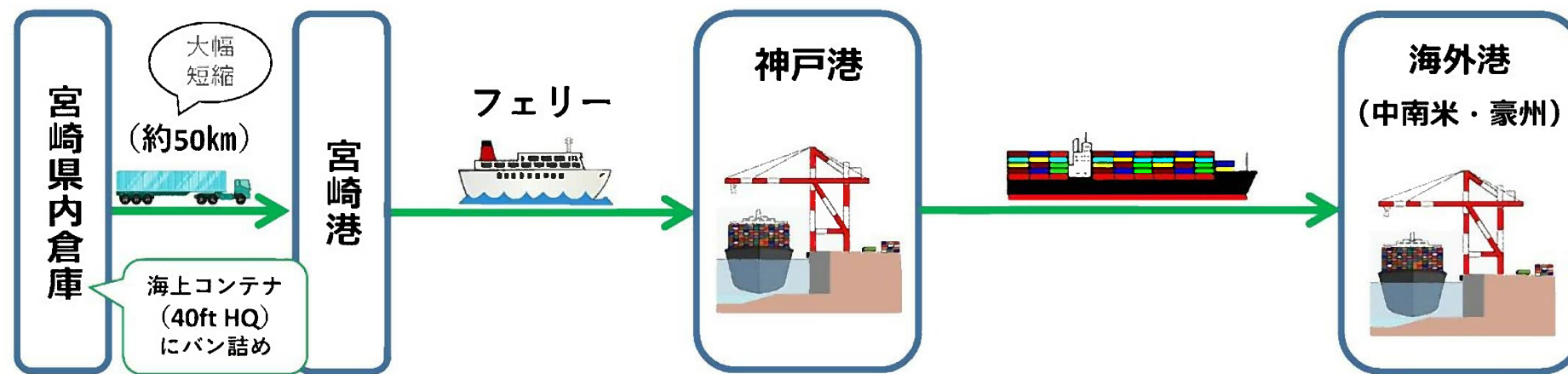
【課題】 宮崎県内工場から出荷した製品を輸出する場合、現状では宮崎県内倉庫から主に博多港までの長距離ドレージを要し、ドライバー不足への対応や緊急時の代替輸送ルートの確保が課題。

【概要】 宮崎港～神戸港を結ぶフェリーを活用し、神戸港接続での輸送を行う。

【成果】 **フェリーを利用し、神戸港経由とすることでドレージ距離が大幅に短縮され、ドライバー不足への対応、緊急時に代替輸送ルートとして活用できる輸送体制が確立できた。**

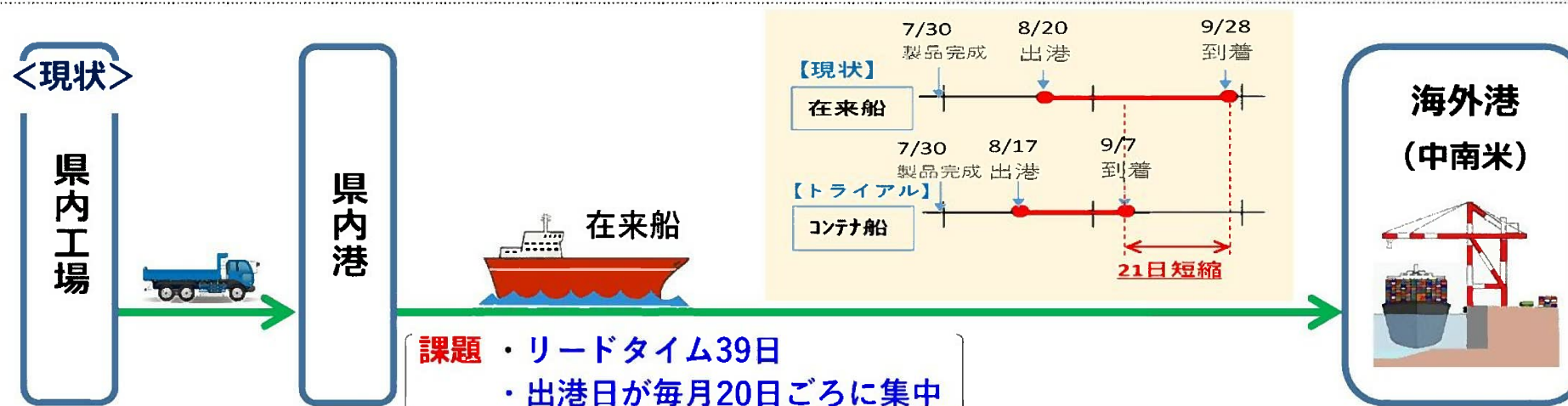


＜トライアル＞ ドライバー不足時や緊急時等に確実に輸送できるフェリーを活用した輸送体制の確立



在来船輸送貨物のコンテナ輸送によるリードタイムの改善

- 【課題】・在来船は中南米への輸送に1ヶ月超を要し、出港日が毎月20日ごろに集中する。
・そのため、製品完成の時期によってはリードタイムが2ヶ月近くかかることとなり、急を要する輸送への対応が困難であった。
- 【概要】神戸港を基点としたコンテナによる中南米向け輸出(横浜港経由)を行い、リードタイムの短縮を図る。
- 【成果】**コンテナ輸送を行うことによりリードタイムが大幅に短縮でき（3週間短縮）、急を要する輸送時にも確実に対応できる体制が確立できた。**



＜トライアル＞ 在来船輸送貨物を緊急時等に確実に輸送できるコンテナ輸送体制の確立

